リトルシニアリーグ試合参加の一般的規則

2024/08/12

福井嶺北リトルシニア　事務局　石丸

[試合への参加者]

● ベンチに入れるのは，登録選手25名以内と、監督，コーチ2名，スコアラー1名に限る。ベンチ設置・撤収時，あるいは緊急時を除き，保護者はベンチに入れない。

● 試合に出場する各チームの選手・監督・コーチは必ず所定のワッペンを左の肩口に付けた同一のユニホームを着用し，選手の背番号は1～25，監督は30，コーチ（2名）は40，50，60，70のいずれかを付けること。スコアラーは決められた服装はないが，指導者と区別のつく服装であること。

● グラウンド内では，ウインドブレーカーを脱ぐこと。フード付きのウインドブレーカーは認めない。

● 眼を保護するためのサングラスの着用を認める。ただし，華美なものは避け，試合前に大会本部と球審に届けること。

● 各チーム3名（最低2名）のボールパーソンを担当すること。途中交替もOKで，登録外の選手でも可だが，保護者は原則不可。ボールパーソンは，ヘルメット着用のうえ，登録背番号のついたユニホームは脱ぐこと。

[試合の成立]

● 試合は7回制とする。4回終了時 10点差、5回終了時7点差の場合は、コールドゲームとする。

● 時間制限がある場合，時間はチームで管理する。制限時間を過ぎるまで，球審や大会本部から告知はしない。

● 7回終了時同点の場合は延長戦に入るか，タイブレイクに入るかは大会規定による。タイブレイクは，1死満塁から開始する。

● 降雨・日没・その他の理由により、試合続行不可能と当該審判員が協議の上決定した場合、4回終了を以って正式試合とする。それ以前の場合は再試合とする。

[フェアプレーの徹底]

● 安全を守るため、故意に相手選手を傷つけるような行為を禁止する。そのような行為について当該審判員の判断により、その選手を退場させることがある。

（例）手，足を高く掲げてのスライディング

● 次のようなアンフェアなプレーも禁止する。

（例）打者走者がスリーフィートライン内を走らず一塁への送球を妨害する行為，捕手，野手が走者の走路に立ったり，ベースを隠す行為，打者が盗塁を助けるため意図的に空振りスイングをする行為

[時間短縮とマナー]

● 攻守交替は全力疾走で行うこと。

● 先頭打者，次打者，ベースコーチはミーティングに参加しない。

● 次打者は，ネクストサークル内で投手が打者に対して投球したら，打球から身をかわせる姿勢でプレーを見守る。投手が投球していないときは周りに注意したうえでスイングすること。

● 打者はみだりにバッターボックスから出ない。サインを見るためにボックスから出ないこと。

● ベンチ，選手間のサインは，必要以上に複雑なものは使わない。

● バッグなど持ち物は試合開始前に整理整頓する。

● 試合終了後，勝敗にかかわらず選手は，クールダウンの前に速やかにグラウンド整備に向かう。

● 試合終了後ベンチを交替するときは，全員協力して速やかに荷物を出す

[用具]

● 用具は，プレー中に破損したり，それによってケガをしたりしないように，選手自身が手入れを行うこと。紐のほどけたグラブや，傷がついたり，グリップテープが破れたりしたバットの使用は認めない。

● 試合で使用するスパイク，およびアップシューズはメーカーや形式は問わないが，完全に白一色であること。ワンポイントやラインも認めない。

● 打者のヘルメットの使用期限は一般に3年。使用するヘルメットは購入期日のシールを貼って管理する。一度でも衝撃が加わったヘルメットは使用しないこと。

● 金属バットは公認されたものを使用しバットリング・鉄棒は球場への持込を禁止する。滑り止めのスプレーも持ち込み不可。

● 試合球は，大会指定のブランドのもののみ使用する。球審から指示があれば，新しいボールを供出するが，指示の無い限りは清掃して使う。晴れた試合なら通常1試合に使う試合球は1チーム3～5球程度。余ったボールは練習球と混ぜずに持ち帰ること。

● バッティンググローブは，派手でなければ使用してもよい。

[選手の保護]

● 成長期の体の保護のため，投手の投球数を管理すること。1投手が投げられる投球数の上限は，シニア公式戦では，1試合90球以下，連続した2日間で130球以下，球数にかかわらず3連投は認めない。

● 猛暑時に大会本部の判断で設けたクーリングタイム中は，ベンチなどで完全に休養を取ること。クーリングタイム中のキャッチボールや素振りは禁止する。

● 臨時代走を認める。頭部へ死球を受けた場合は，該当打者の申告にかかわらず，臨時代走を起用すること。

[抗議及び通告]

● 監督・コーチ・選手は、ストライク・ボール・アウト・セーフ・フェア・ファールボールの判定については，いかなる抗議も申し立てることはできない。

● 監督の抗議は、当該審判員が規則適用の誤りを犯している時に限って抗議できる。

● いかなる場合も，監督（あるいは試合前に本部に了承された監督代理）以外の者が抗議することはできない。また，抗議は次のプレーが始まる前に行わなくてはならない

● 上記に反する抗議や中傷について，大会本部は厳正な態度で対応する。執拗な抗議・中傷で試合運営を妨げた場合，監督の退場やチームの失格を通告する場合がある

● 審判に対しては，連盟審判化保護者審判かにかかわらず，指導者，選手，関係者すべてがその判定を尊重する姿勢で試合に臨むこと。

[保護者の協力]

● 3回戦までは，予備審判含めて1日2名保護者審判を担当する。3級審判は東海大会では全審判，全国大会では塁審を担当可能。4級審判は東海大会の塁審を担当可能。自チーム以外の試合を担当する。

● アナウンスや投球数記録は，自チームの試合を担当する。通常本部エリア内で行うので，試合運営の一員であることを自覚して，自チームへの声援は控えること。

[応援]

● 相手方選手に対する個人攻撃の野次は、ベンチ内はもとより、応援者もこれを禁止する

● 鳴り物の応援は禁止。メガホンの使用は認められる場合があるが，打合せて音を出すのは禁止。

● 投手がセットに入ってから，投球が終了するまでの声援は禁止する。

● ベンチ外の指導者，役員，保護者が試合中に選手に指示をすることはできない。

[その他]

● スコアバッグ一式（審判登録証，投球記録用紙含む），試合球（余った分），AED，団旗は事務局が管理しますので，撤収時は事務局にお渡しください。

● 写真や動画の撮影は，試合運営の邪魔にならないようにすること。大会本部が特別に許可した場合を除き，本部での撮影，センター方向からの撮影は認めない。ドローンの使用も認めない。

● 撮影した写真や動画は，個人情報や肖像権に配慮した取り扱いに心がけること。SNSなどに個人でアップした写真や動画に対するトラブルについて，チームは責任を負わない。

以上//